日々 精進を重ね　美しく結実

第42回 東京書作展

東京新聞主催、文化庁・東京都後援の公募展『第42回東京書作展』が26日から東京・上野の東京都美術館で開催される。

東京書作展は、古典を背景に伝統を正しく受け継ぎ錬磨された本格的な書をめざそうと創設され、今年42回目を迎えた。本展は、発足時より新人書家の発掘と育成を目標の一つに掲げ、流派にとらわれない公平な審査、そして公開にて行う最終審査は大きな特徴である。今回の作品は、「漢字・篆刻・刻字」「仮名」「現代漢字かなまじり文」「少字数」の４部門で、総出品点数は938点となった。コロナ禍の影響の中、今回展の開催は、出品者の強い情熱の賜であり例年にも増して意義のあることと確信する。

最高賞の内閣総理大臣賞・東京書作展大賞は中村若水さんの現代漢字かなまじり文作品が受賞した。同展は12月２日まで開催される。

入賞したみなさん

【内閣総理大臣賞・東京書作展大賞】中村若水＝神奈川県川崎市

【文部科学大臣賞・東京書作展準大賞】高松徑韻＝東京都三鷹市

【東京都知事賞】神瀬翔蓮＝埼玉県入間市

【東京新聞賞】長島玉鷹＝東京都江東区▽滋野蒼柳＝東京都三鷹市▽加藤玄龍＝東京都練馬区▽佐能寶咲＝岡山県井原市▽長谷部華京＝埼玉県鴻巣市▽久保煌泉＝千葉県我孫子市▽田川繍羽＝東京都港区

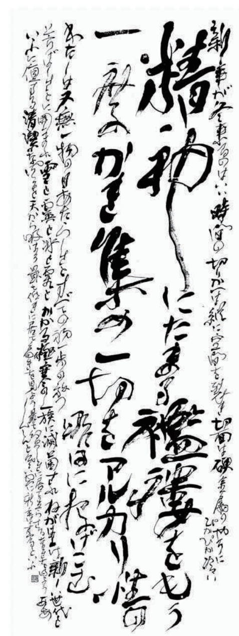
【部門特別賞】第一部門・小山円聴＝千葉県柏市▽第二部門・馬場久美子＝新潟市▽第三部門・福田梢藍＝横浜市▽第四部門・森田羅南＝東京都練馬区

【特選】清田薫壽＝東京都台東区▽宮尾玉粋＝千葉県船橋市▽遠藤羊子＝東京都中野区▽水村瑞鳥＝東京都葛飾区▽野嶋謳花＝千葉県船橋市▽林玉雪＝東京都荒川区▽小山由紀子＝埼玉県所沢市▽今井翠玲＝東京都港区▽真鍋遊乃＝千葉県流山市▽武井茜翠＝東京都西東京市▽藤田馬遊＝埼玉県川口市▽森蘭風＝埼玉県越谷市▽松井紅雲＝東京都墨田区▽齊藤藤月＝千葉県我孫子市▽渡辺紫櫻＝千葉県松戸市▽一村黎明＝東京都新宿区▽小林滋樹＝熊本県玉名郡▽渡辺空谷＝福岡県飯塚市▽山本翠蘭＝神奈川県厚木市▽関佑紀＝新潟県南魚沼市▽大出郷夢＝千葉県市川市▽濱田如雪＝神奈川県茅ヶ崎市▽服部冬華＝福岡県北九州市▽豊田瑞雲＝埼玉県新座市

【優秀賞】赤池白雲＝埼玉県越谷市▽浅海青遊＝さいたま市▽浅野隆幸＝神奈川県茅ヶ崎市▽麻生恵陽＝北海道帯広市▽新井真吾＝埼玉県戸田市▽五十嵐誠聴＝東京都墨田区▽石橋滴水＝埼玉県草加市▽上田朱夏＝福岡県宮若市▽上前櫻風＝東京都武蔵野市▽梅本はる奈＝福岡県八女郡▽大杉央虎＝茨城県つくば市▽太田淑子＝福岡市▽大橋眉柳＝栃木県小山市▽加藤白露＝東京都江戸川区▽金子徑夕＝さいたま市▽北﨑洋子＝福岡県宮若市▽木村智蓮＝東京都台東区▽熊谷華仙＝千葉県八街市▽小林廣穏＝東京都板橋区▽坂本静香＝東京都板橋区▽渋谷直子＝佐賀県三養基郡▽田﨑誠治＝千葉県松戸市▽塚本蕙花＝福岡市▽冨岡翠雲＝東京都西東京市▽鳥越照子＝福岡県糟屋郡▽中里清美＝茨城県下妻市▽鍋山珪璋＝福岡県直方市▽西田香風＝東京都板橋区▽西山好舟＝東京都町田市▽根津煌露＝埼玉県草加市▽長谷川耕史＝東京都品川区▽日野碧映＝さいたま市▽星美佐子＝東京都板橋区▽前田深翠＝神奈川県茅ヶ崎市▽松矢青玻＝埼玉県川口市▽宮内春徑＝東京都江戸川区▽武藤萱子＝福岡県太宰府市▽諸橋舞咲＝東京都港区▽山田伸子＝福岡県鞍手郡▽吉田香櫻＝東京都世田谷区▽吉田翠石＝神奈川県茅ヶ崎市

【奨励賞】會田想月＝東京都足立区▽青野志鵬＝さいたま市▽秋山穂玉＝埼玉県北葛飾郡▽有吉哲子＝福岡県宮若市▽安藤水藍＝新潟県長岡市▽飯田明心＝東京都足立区▽市川佳泉＝愛知県瀬戸市▽上垣旭央＝京都府宇治市▽江川珠光＝東京都渋谷区▽大賀富代＝長崎市▽岡野鶴仙＝さいたま市▽小原桃里＝東京都足立区▽貝田綾子＝東京都国分寺市▽各務希蝶＝千葉県松戸市▽片桐紫華＝東京都西東京市▽勝呂彩櫻＝埼玉県北葛飾郡▽金慧花＝東京都千代田区▽京極常徳＝長崎市▽工藤咲蘭＝東京都文京区▽久保山竹笛＝福岡市▽桑原雪栁＝東京都北区▽鯉沼緑笑＝東京都東大和市▽小林紫翠＝東京都品川区▽小林凜翠＝東京都江東区▽斉藤敏子＝茨城県つくば市▽貞包真由子＝福岡県八女郡▽佐藤笑猿＝東京都練馬区▽佐藤玉華＝新潟県小千谷市▽篠正粋＝東京都練馬区▽清水泰衣＝千葉県松戸市▽周東寛＝埼玉県越谷市▽鈴木華溪＝神奈川県川崎市▽鈴木恵凛＝神奈川県川崎市▽鈴木柊華＝東京都江戸川区▽鈴木翠川＝東京都新宿区▽宗枝雀＝東京都江東区▽高木大介＝東京都世田谷区▽髙谷香晴＝東京都墨田区▽多田桂凜＝千葉市▽忠地九華＝新潟県西蒲原郡▽丁紅葉＝千葉県習志野市▽津川蒼坤＝長崎県佐世保市▽戸江穆翠＝東京都調布市▽永作菊江＝茨城県土浦市▽中山由美＝茨城県常総市▽南戸瞳心＝東京都荒川区▽西山昇光＝愛知県豊田市▽橋本溪舟＝東京都文京区▽橋本輝子＝茨城県稲敷郡▽林伎真＝東京都台東区▽原田清爽＝神奈川県鎌倉市▽古山溪韻＝東京都大田区▽細渕蓮翠＝東京都足立区▽松下静山＝さいたま市▽丸山ツヤ子＝福岡県八女郡▽三森夕瑩＝栃木県那須塩原市▽宮下ゑみ子＝東京都練馬区▽元山荘風＝東京都葛飾区▽百瀬秀花＝千葉県柏市▽山田濤翠＝東京都目黒区▽山本泉秋＝埼玉県川口市▽吉田櫻晶＝千葉県船橋市▽吉田鵬雲＝東京都葛飾区▽ロビン・パーディ＝東京都小金井市▽渡邉香玉＝千葉県松戸市▽渡辺艸春＝東京都練馬区

内閣総理大臣賞・東京書作展大賞



中村　若水さん

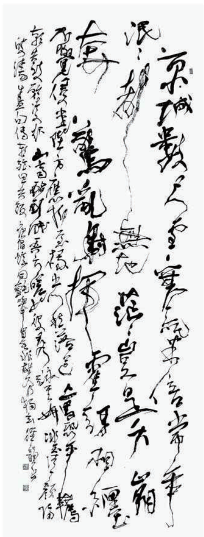
大字の迫力が圧倒的

この度は、名誉ある大賞を賜り驚きと感謝の気持ちで一杯です。受賞作は、私の大好きな高村光太郎の詩「冬」です。彼が厳しい冬と対峙する中で、一切をかなぐり捨て、無となり極寒の中、清められた精神がやがて新まる年を迎えるといった内容です。彫刻家としての潔さを感ずるこの詩を書作でどのように表現するか、課題は山積みでした。墨色や線質、潤渇や余白に留意し創意を重ね、最後に淡いブルーグレーの紙にのせたことで、私なりの作品ができたように思います。今回の受賞を機に更に精進し、自身の書の表現を深めていきたいと思います。

◇七十一歳。過去、特選三回、奨励賞二回、入選七回。

〈評〉大きくうねる大字部分の迫力が圧倒的で、その周りを細字が覆う構成は纏まりを持って作者の力量を感じさせるに充分である。細字部は時に奔り、時に停滞し、時々刻々と移ろう作家の心情を観者に感じさせる。今年の不自由な日常に漂った閉塞感を打ち破るかのようなこの表現はその鬱憤を晴らすのに十分である。下部の纏まりと片仮名の調和にやや課題を残すも最後まで漢字作品と争っての栄冠。大きな拍手を送り今後に益々期待したい。　（内山玉延）

文部科学大臣賞　東京書作展準大賞



高松　徑韻さん

気宇雄大で他を圧す

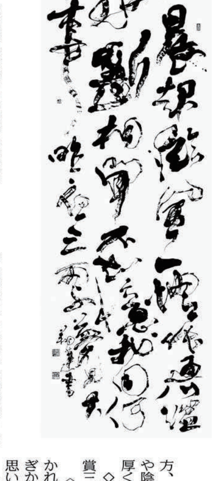
この度は栄誉ある賞を賜り驚きと感激でいっぱいです。これもひとえにご指導頂きました諸先生方のお陰です。

作品は、韓退之の「酬藍田崔丞立之詠雪見寄」です。昨年は絹紙に挑戦し、自分の未熟さ力不足を痛感しました。改めて今年は強い意志で取り組みました。線質にこだわりと、空間が難しく、苦戦の連続、試行錯誤の毎日でした。九月初旬、何故か今日作品が出来ると信じ、詩文で描かれている情景を思い浮かべ、京城に降り積もる雪、長鋒筆がすべるように動き出し、力まず、緩急をつけ、静かにゆったりと書くことができました。

◇七十二歳。過去、特選一回、優秀賞一回、奨励賞一回、入選十一回。

〈評〉この用仙は絹本か、ドーサ無しで書き上げている。内蔵していた作者の意、全身の運動、技とも気宇雄大にして、リズムは一気に乗り、作品を組立てている。布字の妙、行間の密、左右の連動意脈は他を圧して見事である。当初、撰文が決まり画仙へ布字か後ちに本番絹本へと夢を膨らませ挑戦か、濃墨系、超長鋒筆、玉潤、葆光系、羊毛の毛油が練度で抜け深さと稚味が一体化した線、出品中最も秀れた一作、今も推したことに誇りを持ち今も自負している。　（原田歴鄭）

東京都知事賞



神瀬　翔蓮さん

光り輝き堂々存在感

東京都知事賞という栄誉ある賞を賜り、喜びと感謝の念に堪えません。

今回挑んだ白居易の「夢微之」は、長らく会うことのできない友への友愛の思いを詠った詩であります。コロナ禍の現在、離れて暮らす家族や友人に気軽に会うことができないもどかしさを吹き飛ばすがごとく大胆に、且つ線に信念を込めて書き上げました。今後も日々の鍛錬を重ね、自身の技量に一層磨きをかけ、書の道を邁進していく所存です。

末筆ながら、本展審査員の先生方、ご指導頂いた先生方、諸先輩方や陰ながら応援してくれた家族に、厚く御礼申し上げます。

◇五十歳。過去、特選二回、優秀賞三回、奨励賞二回、入選二回。

〈評〉一次、二次審査で何か心引かれる作品でしたが、正直、やり過ぎかなという思いの方が強かったと思います。

しかし、最終審査でじっくり見ていると、他の王鐸風に流麗に書かれた九点の作品がひ弱に見えるようになりました。

この作品は、一字一字を見ると問題な結体が見られ、章法にもやや問題もありますが、これだけ自分を主張し、光り輝き、存在感が堂々と他を圧し見事だと思います。　（中村山雨）

選考経過

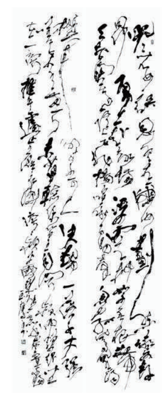
部門別審査の第１次、２次審査により、一般の部作品から獲得点数順に上位38作品が第３次審査に進出した。さらに３次審査で上位10作品が選ばれ、公開討論による第４次最終審査へとコマを進めた。

最終審査に進出した10作品の中より審査員から大賞に推したい作品が複数挙がり、最高賞としてそれにふさわしい作品の選出に様々な視点から意見が飛び交い白熱した討論が行われた。

一般来場者が見守る中、大賞候補作品が絞られ、意見は接戦の様相を見せ最高賞決定に審査会場は期待と緊張感に包まれた。討論審査の結果、最終的に審査員より多数の支持を得て、中村若水さんの現代漢字かなまじり文作品が内閣総理大臣賞・東京書作展大賞に輝いた。次いで文部科学大臣賞・東京書作展準大賞に高松徑韻さんの漢字作品が決定、そして東京都知事賞には神瀬翔蓮さんの漢字作品が選出された。

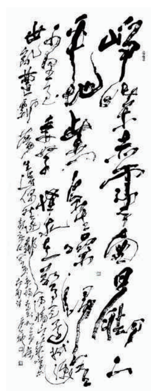
続く７作品が東京新聞賞となり、さらに第３次審査進出作品の中から各部門最上位の４作品が部門特別賞を受賞した。

東京新聞賞



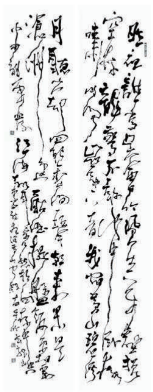
長島　玉鷹さん

躍動感溢れる玉作。見どころは何と言っても二幅の呼応であろう。特に二幅目の一行目がどう一幅目を受け止めたか。
（評・松川昌弘）



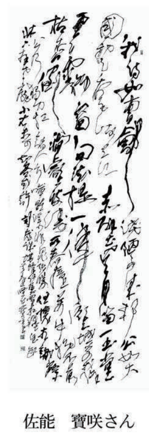
滋野　蒼柳さん

大胆な運筆から生まれる線や字形は魅力的で、若さ漲る瞬発力を見る。極端とも思える小字への畳み込みは至難のわざ。
（評・本多周方）



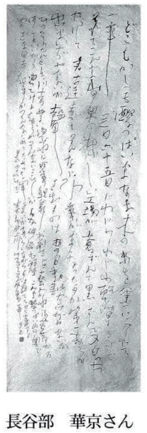
加藤　玄龍さん

穏やかな線、作意のない流れに作者の余裕を見る。多用した連綿線もごく自然に溶け込み情緒ある作品となっている。
（評・今出揺泉）



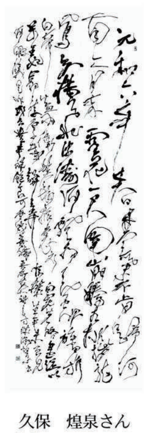
佐能　寶咲さん

穂先のきいた鋭い筆遣い、緩急をつけたリズミカルな紙面構成まさに熟練の作、文字が躍るが如く躍動する、見事である。
（評・斉藤峰葉）



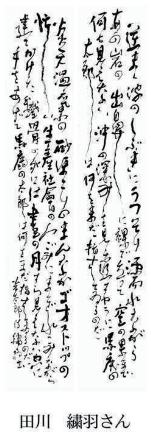
長谷部　華京さん

淡く黄色い加工紙に硬くバネの効いた兎髭筆を用い味の有る細線を多用した現代文。柔らかく静かに揺らぐ脈絡が魅力的。
（評・奥田煌蘭）



久保　煌泉さん

滔々たる運筆が自然な流れを生み心地よい。また、潤渇太細により奥行きと立体感のある作となった。熟達した技量に感服。
（評・冨澤沙月）



田川　繍羽さん

丁寧に書かれた文字がゆったりと流れ、表情豊かに響きあっている。さらに、華麗な潤渇が作品全体を引きたてている。
（評・久米美搖）

総評

〈審査委員長〉
内山　玉延

予想だにしなかった現況下、多くの大規模展が中止になる中、第42回の審査会が10月14、15、16の３日間に渡り、徹底した感染防止対策の上行われました。春から外出もままならぬ日常の中、指導する側もされる側も閉塞感に満ちたものだったことと思います。出品数の減少が見られたものの多くの作品が寄せられたことは、本展に関わる多くの関係各所の皆様のご尽力によるものと感謝申し上げます。そして何より東京書作展の灯を絶やすことなく開催されますことを嬉しく思います。上位入賞は紙上の通りに決定しましたがやはり本年の特徴的傾向は、発想や着眼点は非常に魅力的ながら書き込み不足による練度の足りない作品が散見されたことと一方、経験値の高い方々はそれなりの完成度を見せ、総体的にみると二極化した事は前述の通り、止むを得ない事と思います。

今般のコロナ禍にあって、まずは日々の生活が優先と多くの人々が汲々としています。そしてリモートを中心に益々デジタル化が進もうとしています。それはそれで生活が便利になることは否定するものではありません。が、それは「生きる術」のみが優先されるに過ぎず、何よりそこに生きる人々が真に「生きる力」を持たなければその術も生かされるものではありません。その「生きる力」と成り得るものが芸術と確信し、東京書作展は今後もその事を発信し続けて実力ある作家を発掘し、更に発展することを願っています。

表彰式

「第42回東京書作展」の表彰式は11月26日午前11時45分から、東京都美術館・講堂で行われ、入賞、入選者には次の賞が贈られる。

▽内閣総理大臣賞・東京書作展大賞（賞状・副賞・賞金100万円）▽文部科学大臣賞・東京書作展準大賞（賞状・副賞・賞金50万円）▽東京都知事賞（賞状・副賞・賞金20万円）▽東京新聞賞（賞状・副賞・賞金５万円）▽部門特別賞（賞状・副賞・賞金２万円）▽特選（賞状・副賞）▽優秀賞（賞状）▽奨励賞（賞状）▽入選（賞状）

入選のみなさん

赤松九華＝兵庫県明石市▽油谷風花＝新潟県長岡市▽安藤史舟＝静岡市▽安東晴樹＝東京都墨田区▽伊倉璃杏＝東京都板橋区▽石井紀湖＝茨城県つくば市▽石川由美＝神戸市▽石川蓮久＝東京都台東区▽石川露翠＝東京都葛飾区▽石黒楚啓＝千葉県柏市▽泉松雲＝埼玉県狭山市▽伊丹縫＝長崎市▽伊藤晃子＝千葉県市原市▽伊藤京子＝静岡県掛川市▽伊藤新一＝埼玉県上尾市▽伊藤翠香＝東京都荒川区▽伊藤翠柳＝千葉県佐倉市▽伊藤青瀧＝東京都足立区▽岩越圭泉＝岐阜県大垣市▽岩脇紘川＝千葉県船橋市▽ウィリアム・リー＝アメリカ合衆国▽上野翠嵐＝埼玉県草加市▽氏丸祥風＝千葉県松戸市▽占部孝好＝福岡県直方市▽大塚雨羊＝東京都北区▽大橋美晴＝千葉県習志野市▽岡田豊子＝名古屋市▽岡田美峰＝兵庫県川西市▽小栗貴祥＝岐阜県瑞浪市▽尾山海寶＝東京都世田谷区▽加々見陽仙＝東京都杉並区▽加藤煌翠＝東京都台東区▽加藤雅清＝東京都港区▽金子紀子＝東京都三鷹市▽川島彩霞＝さいたま市▽川嶋麗鷲＝埼玉県草加市▽岸井爽遊＝東京都練馬区▽鬼原みち子＝横浜市▽木本愁蘭＝埼玉県川越市▽木許碧羊＝千葉県鎌ケ谷市▽木山まきえ＝茨城県つくば市▽具志恵翠＝埼玉県所沢市▽栂沢澄子＝新潟県長岡市▽黒田坐忘＝千葉県柏市▽桑原光雲＝千葉県船橋市▽小堺沙都＝新潟市▽後藤流仙＝愛知県岡崎市▽後藤瑠美子＝福岡県筑紫野市▽小林玄風＝愛知県蒲郡市▽小林静風＝福島県東白川郡▽小林理道＝千葉県野田市▽駒崎傘櫻＝埼玉県越谷市▽近藤翔奏＝埼玉県川越市▽近藤武舟＝東京都世田谷区▽齋藤松扇＝埼玉県東松山市▽坂本白玲＝盛岡市▽佐藤靄舟＝東京都品川区▽佐野秀佳＝岐阜市▽澤清閑＝東京都墨田区▽重富拓舟＝佐賀県鹿島市▽清水明＝埼玉県志木市▽志村春蘭＝東京都町田市▽志村成貫＝東京都府中市▽杉原槐堂＝東京都武蔵野市▽杉原翠風＝東京都江戸川区▽鈴木静眞＝千葉県柏市▽鈴木藍秋＝新潟県村上市▽周東紅城＝千葉県いすみ市▽須藤江昴＝東京都江戸川区▽須藤翠紀＝神奈川県平塚市▽住谷尚雲＝東京都世田谷区▽角屋幸＝新潟県長岡市▽瀬川光葉＝千葉県松戸市▽園田玄翔＝兵庫県明石市▽高木敦子＝福岡県大川市▽高橋和子＝福岡県八女市▽高橋一光＝埼玉県川口市▽滝沢石楠＝新潟市▽竹下鏡月＝東京都品川区▽武田桃和＝東京都世田谷区▽多田徑草＝東京都文京区▽田中翁華＝東京都江東区▽谷口鐘雪＝東京都荒川区▽谷本典慧＝東京都港区▽田淵悠山＝千葉県松戸市▽田村青繍＝東京都文京区▽塚田泉輝＝神奈川県川崎市▽綱川寿峰＝さいたま市▽土居春和＝東京都世田谷区▽堂下智泉＝千葉県流山市▽徳久遊石＝愛知県稲沢市▽友岡誠也＝千葉県袖ケ浦市▽豊福聡子＝福岡県宮若市▽鳥居雅舟＝愛知県安城市▽中川蒼紫＝岐阜市▽中島梅笑＝東京都板橋区▽中島久夫＝兵庫県川西市▽中嶋満利子＝茨城県つくば市▽中村月咲＝東京都品川区▽永山桃鳳＝東京都港区▽奈良源堂＝さいたま市▽奈良六夕＝東京都北区▽西中須盈山＝長崎市▽西之園笛草＝東京都国分寺市▽羽﨑式部＝静岡県熱海市▽羽田楓月＝東京都港区▽馬躰紫礼＝東京都港区▽幡谷俊一＝埼玉県入間市▽林紫康＝岐阜県養老郡▽原田菊徑＝神奈川県藤沢市▽日浦魯山＝東京都杉並区▽冷牟田那智＝福岡県北九州市▽平城由香＝福岡県宮若市▽平松希汀＝福岡県北九州市▽深尾葉園＝岐阜県各務原市▽深澤健二＝神奈川県川崎市▽福永睦翠＝東京都大田区▽藤田如月＝福島県東白川郡▽藤田淡春＝東京都港区▽藤野樂心＝東京都八王子市▽藤野秀代＝福岡県直方市▽細田貴葉＝愛知県春日井市▽堀米瑞圓＝東京都荒川区▽益山星河＝千葉県柏市▽松井春耀＝東京都世田谷区▽松田鶴信＝山口県下関市▽真野藤仙＝東京都港区▽三澤傳衛＝横浜市▽水谷幸泉＝愛知県長久手市▽水野銀嶺＝神奈川県川崎市▽三田光彩＝埼玉県入間郡▽三田至翠＝埼玉県草加市▽皆川梨花＝東京都文京区▽宮本小志＝茨城県守谷市▽村井墨澳＝東京都品川区▽村石紅晶＝東京都大田区▽村田慈心＝埼玉県春日部市▽村山和世＝東京都町田市▽柳澤橙歩＝東京都台東区▽山岸紫苑＝千葉県浦安市▽横山菫青＝埼玉県久喜市▽横山樂謳＝東京都新宿区▽吉成虎蹴＝埼玉県川越市▽吉村友翠＝東京都荒川区▽若月吟爽＝東京都江戸川区

26日から展覧会

◇**会場**　東京都美術館１階・第１～第４展示室（東京都台東区上野公園８の36）

◇**会期**　11月26日（木）～12月２日（水）９時30分～17時30分（12月２日は14時30分まで）入場は閉場の30分前まで

◇**入場料**　500円、高校生以下無料

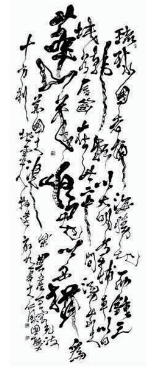
◇**常任運営委員**＝内山玉延、中村山雨、原田歴鄭、佐谷江雲、松川昌弘、本多周方、今出揺泉（就任順・敬称略）

◇**審査委員長**＝内山玉延

◇**当番審査員**＝井上遊行、江島曜一、大場升琳、奥田煌蘭、掛村春耀、久米美搖、小林白藍、斉藤峰葉、酒井紫艸、善明慶子、高木逢柚、辻花燿、冨澤沙月、西尾邑城、根津鶴水、袴田玉華、宮川愛蓮、矢部澄翔、吉梅典寿（五十音順・敬称略）

部門特別賞

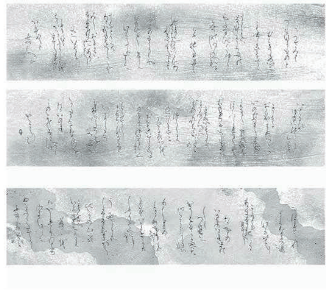
第一部門　漢字・篆刻・刻字



小山　円聴さん

一字一字を丁寧に書き、連綿をうまく作り上げている。流れが心地良い。全体を勢いよくまとめた作品。
（評・善明慶子）

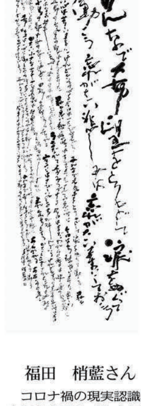
第二部門　仮名



馬場　久美子さん

平安時代を彷彿とさせる書き振り、文字と共に紙への拘りは、作品創りに拍車が掛り磨かれた仮名らしい珠玉の作となった。
（評・小林白藍）

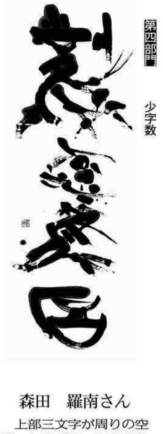
第三部門　現代漢字かなまじり文



福田　梢藍さん

コロナ禍の現実認識の中に身を置き「みんなで希望をとりもどして涙をぬぐって働こう」というフレーズを淡々とまとめた。　（評・酒井紫艸）

第四部門　少字数



森田　羅南さん

上部三文字が周りの空間へと広がり、四文字目で全体を締める効果は絶妙。心地良い流れは「風流篤厚」そのものである。　（評・江島曜一）

依嘱の部

第四十二回東京書作展依嘱の部において、大熊水蘭、五反田紅風、後藤秀泉、斉藤李蓬、佐藤椋風、杉村蘭夕、辰巳藍河、戸井篁月、並木樹恵、前田圭子、村野光寿の十一人が特別賞に選ばれた。特別賞の各氏は審査会員推挙となり、将来の東京書作展の担い手として嘱望されている。

なお、今回特別賞候補に赤松洋子、市川世津子、伊藤珀雨、大久保雪花、大原上小、鬼塚珠慧、嵩優山、木嶋真美、清野かつ江、曽根美奈子、竹下里虹、田邉湖舟、豊田俊岳、菱沼桃圭、福王寺雍石、福田玉庭、福山玲峯、前田英子、松村曽香、山田華泉、米沢純樹の二十一人が挙がった。
（五十音順・敬称略）

審査会員に11人を推挙

大熊　水蘭

五反田紅風

後藤　秀泉

斉藤　李蓬

佐藤　椋風

杉村　蘭夕

辰巳　藍河

戸井　篁月

並木　樹恵

前田　圭子

村野　光寿

祝 第42回東京書作展
会場／東京都美術館　1階第1～4展示室
東京都台東区上野公園8-36
会期／令和2年11月26日（木）～12月2日（水）
時間／午前9時30分～午後5時30分（入場5時迄）
最終日は午後2時30分迄（入場2時迄）
入選・入賞
おめでとうございます
主催　東京新聞
後援　文化庁　東京都

御誂美術表装・展覧会用貸額・額屏風
伝統美を創造する。
伝統美を新しい感性で追求する感動創造集団
東洋額装株式会社
TOYO GAKUSO
東京支店／〒116-0012 東京都荒川区東尾久8-25-4 TEL (03) 6807-6455 FAX (03) 6807-6456
本　社／〒720-2410 広島県福山市加茂町八軒屋3番地 TEL (0849) 72-5577 FAX (0849) 72-6671
大阪支店／〒561-0857 大阪府豊中市服部寿町2-21-1 TEL (06) 4866-8588 FAX (06) 4866-8020

印刷匠人達が、如何なることにも完全対応
hokuetsu
ホクエツ印刷株式会社
〒135-0033
東京都江東区深川2-26-7 北越ビル
TEL 03-5245-8821 FAX 03-5245-8828
http://hokuetsup.co.jp/